

### 「井の頭公園を訪れるみなさんへ」 第五小学校の子どもたちからメッセージ

「ごみは持ち帰って」「コイに餌をやのりすぎないで」「湧き水を大切に」「飼っている魚を池に放さないで」…先月から井の頭公園のあちこちに、子どもが描いたポスターが張られているのにお気づきですか。これは、第五小学校の子どもたちが、大好きな地元井の頭公園を訪れる人に伝えたいメッセージです。

五小の4年生(新5年生)は昨年度の総合学習のなかで、公園の魅力アピールする「井の頭宣伝会社」を立ち上げた。

## 今学校で

総合学習の取り組み

### 子どもに「チャレンジ精神」を 第四小学校で「会社」を設立 ～アントレ・プランの実践



置かれ、子どもたちははたはたの役割を担います。その後、地域の事業者など専門家のアドバイスを受けたら、地域インフラネットや保護者や地域の人の商品の試作品と値段を提示して意見を求めるなかで、会社ごとに「売れる商品」「効果的な売り方」「値段設定」などを検討し

第四小学校の5年生(新6年生)が、学校の校庭で拾ったギンナンの販売収益を元手に「四小カバン」を設立。手芸品、便箋やカード、工芸品などの商品を開発・製作し、2月27・28日の2日間、中央通りに出店しました。

子どもたちはまず、昨年11月、校庭で集めたギンナンを袋詰めにして地域の人々に販売し、約1万円の収益を得ました。次に、この収益をもとに、布製品、紙製品、工芸品などの種類別に商品を製作・販売する疑似会社6社を設立。各社には「宣伝部」「経理部」「商品開発部」などが

てきました。小学生を対象としたこのような「起業教育」は、全国でもほとんど例がない試みといわれていますが、「会社を作って利潤を得るまでのプロセスが大切。子どもが社会とのつながりを実感し、『生きる力』を育むために、ぜひ総合学習に取り入れてみたい」と、同校・貝ノ瀬滋校長。この単元を開発した所夏目教諭も、「利益をあげるという明確な目標に向かうと、必然的にディスカッション中心の活動になります。その中で、チャレンジ精神や自己責任をとる力、コミュニケーション能力



「井の頭公園好きマップ」(写真右)を作成しました。

「改良会社」は、「ごみ」「水」「生き物」のグループに分かれました。「ごみグループ」では数回にわたる公園のごみ拾いを行った結果、多いのはタバコの吸い殻で、葉っぱに隠れている吸い殻も多かったと

を発見。2月には学校に提案して児童・保護者500人の参加で「全校ごみ拾い」を実現しました。また、「ごみのない公園には、ごみを捨てにくいだろう」と、授業時間外も自主的なごみ拾いに行きました。

池の水をきれいにするには「水グループ」では、七井橋付近の水などに比べてお茶の水井戸と弁財天の付近でははるかに透明度が高いことや、コイの餌の量が水に及ぼす影響について調べ、「生き物グループ」は、輸入トラックバスやブルドーザーが昔たくさんいた生き物を追い出してしまったことなどを調べました。

このように、いろいろなことを調べましたが、「調べたままでは解決できない。ぼくらの願いをみんなに伝えていかなければ」ということで考えたのが、公園に各グループ手作りのポスターを張りに行くことでした。

子どもたちは今後も、学校のホームページでもメッセージを発信していきたいということです。

### 高山小出身の指揮者・沼尻竜典さんが 後輩にオーケストラの生演奏をプレゼント



「子どもたちに小さなころから本物の音楽に触れてほしい」と、高山小学校出身の世界的な若手指揮者・沼尻竜典さんが3月14日、母校の全校児童460人を招き、芸術文化センターで「プレゼントコンサート」を開催しました。

沼尻さんは現在、日本フィルの正指揮者や名古屋フィルの常任指揮者として活躍中で、平成13年には芸術選奨文部科学大臣賞新人賞を受賞。三鷹でも平成7年の芸術文化センターのオープン以来、自ら呼びかけて結成した室内管弦楽団「ト

ウキョウ・モーツァルトプレーヤーズ」(TMP)とともに同センターを拠点に活動を続け、「みたかジュニア・オーケストラ」のアドバイザーも務めてくださっています。この日は、初めての試みとして、翌日のTMPのコンサートのリハーサルをコンサート形式にして、母校の後輩を招待しました。

プログラムは、モーツァルト「魔笛」の「夜の女王のアリア」、「交響曲第40番ト短調」の第一楽章など。演奏の合間には沼尻さんの自己紹介や、「寝てもいいけど、いびきはだめ」などユーモアを交えたトークが入り、子どもたちはリラックスしながら、生のオーケストラの迫力ある演奏に引き込まれていました。最後は沼尻さんの指揮とオーケストラ演奏で、「大きな古時計」と「高山小学校校歌」を全員が大きな声で合唱し、大きな拍手が沸き起こりました。

## ほんはともだち

### 「春をたのしむ本」 小さいお子さんと いっしょに

歩きはじめた子どもは、毎日新しい世界を発見しています。目に映るもの、手にふれるものすべてが、驚きに満ちています。

今月は、小さいお子さんと春をたのしむための本を紹介します。ゆつくり散歩しながら、春のいぶきを探してみてください。

◆「ぶくちゃんのとことごあんよ」  
ひろかわさこ作 アリス館  
ぶくちゃんはお母さんと野原に出かけました。ひとりで上手に歩くと、こつこつとこつこつ歩きます。転んだら大丈夫、ちゃんと立てるようになりました。いも虫を見つけて後をつけていくぶくちゃんを、お母さんが笑顔で見守ります。

◆「うたえほん」 つちだよしはる  
絵 グランまま社  
「ちようちよう」や「ぶんぶん」といった、誰もが知っている童謡を集めた絵本です。楽譜付で、あなたかみのある絵が歌のイメージを伝えてくれます。おとさんと手をつないで、歌いながら歩いてみてはいかがでしょう。

◆「ジョン・バーニングガムの123」  
(あそんでまなぼう) ジョ  
ン・バーニングガム かね書房  
男の子が大きな木に登りました。女の子もやってきました。一人、

二人、三人：枝は子どもで鈴なりです。そこへなんと、トラが現れたので、さあ大変です。

数をかぞえるための絵本ですが、よく見ると、枝にぶらさがって遊ぶ子どもたちの様子がページごとに変化しています。

◆「いちご」 平山和子作 福音館書店  
「いちごは どこにあるの？」そんな子どもへの問いかけに、雪にうもれた葉っぱが答えます。「いちごのみは あたたくくたたら なりませんよ。」やがて白い花が咲き、青い実が大きくなって赤くあまくなつていきます。お皿いっぱい盛られた真っ赤ないちごは、とてもおいしそうに描かれています。

◆「虫さがし」(虫の飼いかた・観察のしかた)① 海野和男・筒井学文・写真 偕成社  
モンシロチョウは菜の花のような黄色い花が好きで、アゲハチョウはツツジの赤や白の花に集まります。この本では、四季折々のいろいろな昆虫たちの居場所を、家の近所雑木林、水辺に分けて説明しています。実物大の写真もわかりやすく、手軽な昆虫図鑑として使うこともできます。

◆「草花あそび」(すぐできるやさしいあそびの本) 竹井史郎作 小峰書店  
日が暮れるまで夢中でメクサの花飾りを編んだ。とほありませんか？タンポポのメカネやスミレをからませる花ずもうなど、子どもと楽しめるなつかしい草花遊びがいっぱいあります。

◆「ジョン・バーニングガムの123」  
(あそんでまなぼう) ジョ  
ン・バーニングガム かね書房  
男の子が大きな木に登りました。女の子もやってきました。一人、

↓三鷹図書館 ☎43-9151